

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	第2放課後等デイサービス ささゆり		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 11日		～ R7年 2月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	R7年 1月 11日		～ R7年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	電車に乗って買い物に行ったり、調理活動などの生活力を高める活動が充実している。脳機能バランス・ビジョントレーニング・ソーシャルスキルトレーニング・知育玩具等を取り入れ、楽しみながらスキルアップできる環境を整えている。	生活に密着した自分の身の回りのことが自分できるように細かなプログラムを立案し、取り組んでいる。児童の特性に応じた教材・教具を取り入れられるように努めている。	一人一人のニーズにあった内容の支援ができるようなイベントや活動の開発をする。ささゆりでは出来るが、家ではしないということが多いのでレシピの配布やSNSでの発信を行うことで家庭でも一緒にできる機会に繋げていく。
2	一人ひとりの特性・学力に合わせた学習(宿題)に取り組める環境があり、学習習慣の定着に繋がっている。	個々の学習状況に応じた支援ができるよう職員間の共有や学校との連携を取るようになっている。	一度した学習を忘れてしまう児童がいるため、繰り返し学習支援できる状況を充実させていく。
3	職員間のコミュニケーションがとりやすく、様々な場面において連携した支援ができています。	朝礼で一日の流れを確認し、終礼で支援の振り返りを行い、改善に努めている。活動中において想定外のことが起きても声をかけ合い、協力できるようにしている。	朝礼や終礼などにおける情報共有や支援内容についての話し合いをより充実させる。
4	保護者とのコミュニケーションがとりやすく、様々な場面において保護者の立場に立った支援を行うことで、保護者からの相談がしやすい環境を整えている。	児童の学習状況や体調、情緒面について送迎時やSNS・電話等で伝えている。また、家庭の様子や学校からの情報についても意見交換することで情報共有できるようにしている。	保護者や児童の状況についてより丁寧に把握することで保護者の思いに寄り添った支援ができるように努めていく。
5	HUG・LINE・通信を用いて活動の様子を分かりやすく保護者に提供している。また、学校や関係機関にも情報提供をしている。	児童の様子がより分かりやすい写真の貼付や文章表現をしている。実際の活動場面を見てもらえる機会として音楽会・芸術文化祭・運動会・防災教室・しゃぼん玉等保護者、家族の方、学校の先生に参加を呼びかけた。	保護者間が交流できる場や児童の様子を見てもらったり一緒に参加できるイベントの充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの基準は満たしているが、子どもたちの要望に応じた活動をしようとする部屋が狭いため内容に限りがある。	敷地及び設備が限られている為、十分なスペースを取ることが難しい。	限られたスペースを有効活用するための内容の工夫や活動場所の確保を行っている。
2	地域の方々や子どもたちと交流する機会を設定するのが難しい。	当事業所の活動や取り組みについて理解していただく機会が少なく、地域の方々や子どもたちと交流する場の設定が難しい。	地域性を配慮しながら挨拶をしている。地域の公の場へ出かけたり地域の子どもたちと触れ合う機会を設ける。
3	事業所が二階であるため、制限されることが多い。	身体不自由の児童の利用や安全な避難経路の確保が難しい。	事業所の現状に応じた支援や対策を検討していく。